

# ジーライオンアリーナ神戸

GLION ARENA KOBE

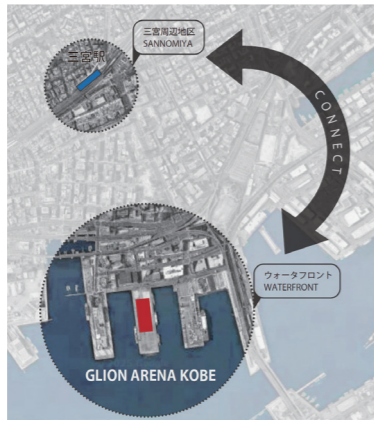
No. 03-089-2025作成  
新築  
集会場／物販／飲食

発注者	NTT都市開発株式会社	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
設計・監理	株式会社大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	株式会社大林組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

## 日本初・270度海に囲まれた次世代アリーナ

### ウォーターフロントエリアの賑わい再生

かつて輸出入の拠点として栄えていた神戸突堤エリアは、年々その機能を失っていった。神戸市は、突堤エリアに新たな集客拠点を設けることで、ウォーターフロントが賑わいと交流の拠点となるとともに、分断されていた三宮・元町エリアとの新たなネットワークの構築、ウォークアブルな街の実現を目指していた。本施設の敷地となった新港第二突堤は、南北に細長く、270度を海に囲まれていることから、大規模集客施設の開発用地としては課題の多い敷地であった。そのような背景の中、官民連携の効果を最大限に発揮し施設を開発。行政主導の周辺エリアでは、突堤先端への誘導や他施設との連携を誘発する歩行者空間を整備するなど、双方が唯一無二なロケーションを充分活かし、365日絶え間ない賑わいを創り出す街に生まれ変わることを目指した。



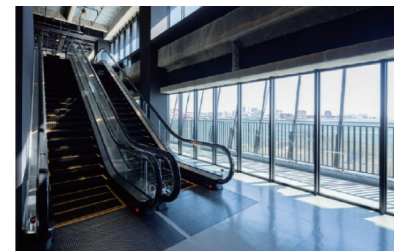
3方を海に囲まれた特徴的なロケーション



突堤全体での賑わいの創出

### 365日あらゆる人が楽しめる環境の構築

アリーナ施設はその機能上、閉鎖的な計画となることが多いが、ジーライオンアリーナ神戸では、南北の出入口だけでなく、再開発が予定される西側ウォーターフロントに面して連続した開口を設けるなど、開放的な計画としている。上層階には四方を眺めることができるテラス、低層階には屋内外から利用可能な店舗を配置し、アリーナで最高のプレーやパフォーマンスを観ることに加え、非興行日でも海に囲まれた眺望とともに食事を楽しめる環境を提供している。これにより、既存のファン層に加え、スポーツやエンタメを身近に感じていなかった来訪者など、新たな来場者層の拡大を実現している。

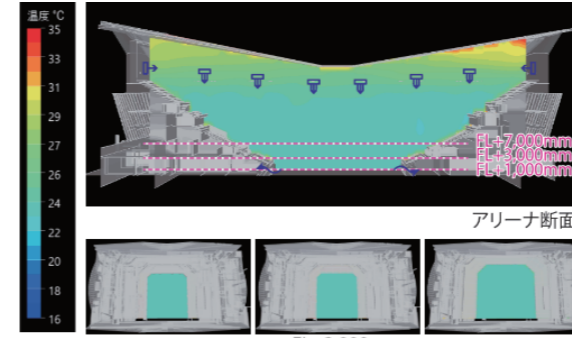


建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	兵庫県神戸市	Aランク	
竣工年	2025年	BEE=1.6	
敷地面積	23,693㎡	2016年度版	
延床面積	32,204㎡	自治体提出	
構造	S造・SRC造	ZEB Ready	
階数	地上7階		

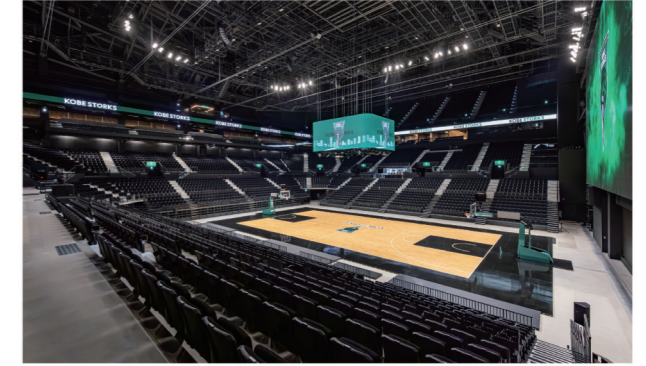
1万人収容で国内初のZEB Readyを取得した環境配慮型アリーナ  
内部空間は、座席スタンドの断面形状に沿わせたV字型の屋根形状により、ボウル内部の気積を最小化して、効率的な熱気抜き可能としている。さらに、アリーナの温度や気流分布のシミュレーションに基づき、客席配置と屋根形状に合わせた最適な空調システムを導入することで、効率的に居住域を空調できる計画とし、1万人以上を収容する大規模アリーナ施設としては国内初となるZEB Readyを取得した。



V字型の建物形状



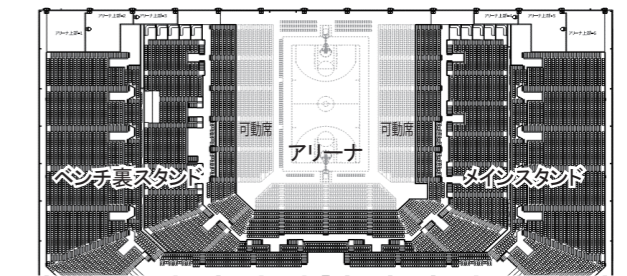
アリーナ温度シミュレーション



3方スタンドのアリーナ空間

### 観客との距離感を極限まで近づけたコート配置

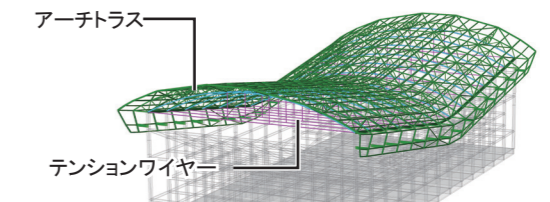
計画地短辺方向が約65mと1万人収容のアリーナ敷地としては極端に狭く、スタンド（観客席配置）をどのようにレイアウトするかが計画上の最大の課題であった。一般的に敷地の長辺方向に合わせてレイアウトするバスケコートが90度回転させ、ゴール裏1辺のスタンドを取りやめて馬蹄型のスタンド形状にするとともに、スペースを確保できるコートサイド方向に多段スタンドを計画した。これにより1万席を確保し、各座席からコートやステージが近く、見やすさと臨場感を演出できる計画となっている。



アリーナ部平面図

### 軽量な部材で大空間を構成した架構計画

V字型の屋根にはテンションワイヤーを用いた「タイドアーチトラス構造」を採用している。アーチをワイヤーで拘束することによってスラスト力を制御するとともに屋根トラス鉄骨の重量を抑制し下部構造に作用する地震荷重の負担を低減している。同形状のタイドアーチトラスを中央部が低く外側が高いアリーナ観客席の勾配に合わせて配置することで、高さを極力抑え躯体の軽量化を実現し、狭隘な突堤内での短工期の施工を可能にした。また、アーチの東西側の控え架構部分は設備置場とし、目隠し壁を設けることで、どの方向から見ても裏のない外観を実現した。



タイドアーチトラス施工状況

### 設計担当者

統括：一居康夫／建築：岩岡丈夫、森岡知弘、中村文彦／構造：浅岡泰彦、村田翔太郎、橋本拓哉  
設備：池田正人、西村晃、中埜哲太郎／電機：足立佳生、宮澤嵩史／外構：飛世翔、鈴木悠介

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（厨房排気、高湿系排気は長寿命化を図り、ガルバリウム鋼板ダクトを採用）
- LR2. 1. 水資源保護（自動水栓、節水型器具の全面的採用）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（躯体と仕上げ材が容易に分離でき、また再利用可能なユニット部材を採用）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（交通負荷軽減のため、一般来場者駐車場を設けず、シャトルバス乗り場を計画）
- LR3. 3. 周辺環境への配慮（イベント時の騒音、振動シミュレーションにより周辺の影響を最小化）